

いちたま かわせみ
一玉の翡翠飛びつ森川に

片身を絞る末の松山

令和六年七月十七日

大中臣正比呂



契ちぎりきなかたみに袖をしぼりつつ末すえの松山波越なみこさじとは

これは、百人一首に収められた清原元輔きよはらのもとすけの恋の歌である。

一羽の美しいカワセミが、森の川から飛び立った。

夏衣なつぎぬに身を包む女むすめよ、いつしか新橋色しんはしいろに馴染むことだろう。

ござれ、話しましょうぞ 木挽町こぎまきちやうの陰で

待つのはの夜に こん細こんこやかにー